



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



DECEMBER 2024

ISSUE #44



Gabriel Dupont 氏 (中央), IRPA16 Young Scientists and Professionals Award 受賞者

目次:

- 編集部からのメッセージ - 2
- YOUNG PROFESSIONAL AWARD GOLD MEDAL 受賞者: GABRIEL DUPONT 氏 - 3
- 新しい理事会メンバーに出会う: HIELKE FREERK BOERSMA 氏 - 4
- オーストラリア、ダーウィンで開催された第 18 回国際放射線防護委員会 (IRPA) への ARPS の旅 - 7
- 関連学会紹介: ポルトガル放射線防護学会 (SPPCR) - 10
- IRPA タスクグループ最新情報: WOMEN IN RADIATION (WIR) - 12
- 関連学会の最新情報: マレーシア放射線防護学会 (MARPA) - 13

翻訳: 中村 秀仁、編集: 藤通 有希、監修: 佐々木 道也

この"IRPA 会報"の日本語訳は、IRPA の公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Hidehito Nakamura, edited by Yuki Fujimichi and reviewed by Michiya Sasaki.

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

編集部からのメッセージ

ANDREW KARAM

私たちの多くにとって、1年の終わり、そして迫り来る次の年の始まりは、終わろうとしている1年を振り返り、何がうまくいき、何がうまくいかなかったかを考え、次の1年に向けてどのように改善していくかを考える機会となります。最新の仮説によれば、編集者はさまざまな人がいて、この時期を同じようにとらえる傾向があるとされています。それでは、2025年のIRPAのコミュニケーションの話をしましょう。

私たちの職業は100年以上の歴史があり、初期の研究者たちがX線が皮膚熱傷を引き起こす可能性があることに気づいた非常に初期の時代にさかのぼります。放射線防護は、この1世紀で学んだことにより、多くの点でシンプルになりました。なぜなら、私たちは日常的な手順、「ベスト」プラクティス、かなり包括的な規制を開発したからです。実際、放射線防護は日常的なものとなり、現在ではほとんどの放射線防護は、安全、危険物、医学、放射線撮影などの専門家の責任となっています。この結果、多くの放射線防護に関する学会が会員数を減らしています。もし、私たちが正当な専門職としての地位を維持し、専門職として進化し続けるためには、新しい放射線防護の専門家を引き付け、早期キャリアの同僚がキャリアを築き、キャリアアップできるよう支援し、私たちの専門職が興味深く充実したものであることを理解してもらうことが不可欠です。

このため、IRPAでは、会報での記事やIRPAウェブサイトでの特集を、若手の放射線防護専門家に向けたものと位置づけています。会報では、若手世代ネットワークの活動や人々について取り上げ、ウェブサイトでは、IRPA会員がキャリアのどの段階であっても、放射線防護の仕事に就くことになった経緯（理由）や、そのキャリアが現在どのような形になっているかを伝える機会を設ける予定です。また、放射線防護のキャリアに関するウェブページの構築を継続し、放射線防護のキャリアを検討している人やキャリアの初期段階にある人を支援するために、どのような情報やツールを提供または開発できるかを検討していきます。

また、多くのIRPA会員にとって、IRPA幹部は謎に包まれた存在であることも理解しています。そのため、IRPAでは理事会メンバーのプロフィールを掲載し、読者の皆様に、リーダーたちが放射線防護の道を志した経緯や理由、キャリアの築き方、専門的な関心事などを知っていただく機会を提供する予定です。また、四半期ごとに理事会メンバーからのメッセージを掲載し、各メンバーにとって重要な問題について考えを共有する機会を提供します。

最後に、皆様からの投稿をお待ちしております！面白い発見をしましたか？あるいは、放射線防護の問題に取り組む斬新で興味深い方法を開発しましたか？何かを学ぶ旅に出たことがありますか？私たち全員のためになるような、示唆に富んだ問題の捉え方がありますか？私たちに教えてください！短い文章（500字以内）を書いて、あなたの経験を他の人と共有しましょう。

要するに、IRPA会報は読者の皆さんのためのものです。他の放射線防護の専門家にとって役に立つ、あるいは興味深いことをしたり学んだりしたことがあれば、ぜひお知らせください。皆さんの投稿をお待ちしています！

YOUNG PROFESSIONAL AWARD

GOLD MEDAL 受賞者: GABRIEL DUPONT 氏

ガブリエル・デュポン氏はアトロンメトロロジー社に勤務する放射線防護の若手専門家です。フロリダ州オーランドで開催された IRPA16 の IRPA ヤングプロフェッショナル賞で、彼は「放射線源を使用しない放射線サーベイメータおよび線量計の校正」というテーマで発表し、受賞しました。大会終了後、ガブリエルにインタビューを行いました。

私はノルマンディーに本社を置くフランスの民間企業 ATRON METROLOGY で働く研究エンジニア、ガブリエル・デュポンです。私は 2016 年にカーン国立高等工科学校 (ENSICAEN) で原子力工学の学位を取得し、その後、ATRON METROLOGY とカーン研究所 (LPC Caen) で産業博士論文に取り組み、従来の放射性線源ではなく、X 線を発生させる電子加速器を使用して放射線サーベイメータの線量計を校正する方法を開発しました。

私は 2019 年に博士論文を提出し、それ以来、同じ会社で技術・科学部門の研究技術者、計測・核計測の専門家として働いています。また、カーン大学と原子力科学技術国立研究所 (INSTN) で放射線防護と原子力工学の非常勤講師も務めています。

余暇には、一般の人々、特に若い世代に科学と懐疑主義を広める学会のボランティアをしています！最後に、私は歴史が好きです（下の写真にあるように、新しい国を訪れ、外国の文化を発見すること）！



新しい理事会メンバーに出会う：

HIELKE FREERK BOERSMA 氏

IRPA 会報の次号からは、新理事会メンバーのプロフィールをご紹介します。今号では、まず Hielke Freerk Boersma 氏をご紹介します！

なぜ放射線防護の分野に進まれたのですか？

完全に正しいわけではないが、ある程度は「偶然の産物」です。90年代初頭に理論核物理学の博士号を取得した後、私は科学研究を続けるのではなく、環境保護の仕事を探すことにしました。しかし、当時は就職難の時代で、特に興味のある分野での特別な経験ありませんでした。1年後、私はサイエンス・ショップ（70年代にオランダの大学で初めて設立された、素人や非政府組織に科学的知識や技術へのアクセスを提供することを目的としたショップ）で地域密着型の研究に携わることができるプログラムに参加することができました。



この仕事（最初は主に音響学、後にユトレヒト大学のサイエンスショップのコーディネーター）の一環として、私は初めて放射線防護トレーニングコースに参加した。1997年、私はフローニンゲン大学の放射線防護専門家に応募する機会を得ました。それにもかかわらず、私は任命され、3つの異なるパートタイムの職を経験した、興味深いが疲弊した時期に終止符を打ちました。3つの異なる非常勤職を経験しました。

なぜ IRPA 理事会に参加しようと思ったのですか？

放射線防護に携わって最初の数年間は、放射線防護トレーニングを修了し、大学で放射線防護の新組織を立ち上げ、私たちの研究所で放射線防護の E&T プログラムにも携わった後、オランダ放射線防護学会 (NVS) で活動するよう誘われました。オランダのサイエンスショップで活動するようになったきっかけを振り返ってみると、私は常に、フローニンゲンの同僚以外の、より広いコミュニティと自分の知識や経験を分かち合いたいと思っていたようです。そのため、私はこの機会を両手でつかみました。2002年、私は NVS の理事に選出され、2008年から2014年まで NVS の会長を務めました。この期間は、放射線防護における私の国際的なネットワークを広げる機会となりました。NVS 理事としての最後の期間は、主にハーグで開催された第5回 IRPA 地域大会（2018年）の運営に専念しました。これと並行して、私は教育・訓練分野での国際的な活動も活発化させ、特に EUTERP（European Foundation for E&T in Radiation Protection）の理事会メンバーとしての活動が印象的です。放射線防護専門家の代弁者である IRPA 理事会には、地域の放射線防護専門家や研修プロバイダーとして活躍している人が、やはり現場に近い立場で代表されるべきだと私は確信しています。そのような思いから、私は NVS から IRPA 理事会の候補者として推薦され、大変光栄に思いました。私の原動力は、放射線防護専門家の世界的なコミュニティと自分の知識と経験を共有したいという願いです！

新しい理事会メンバーに出会う：

HIELKE FREERK BOERSMA 氏

任期中に IRPA が成し遂げたいことは何ですか？

推薦をお受けした動機の中で、私はすでに教育訓練の分野で IRPA の活動に貢献したいという希望を表明しています。IRPA は過去数十年にわたり、放射線防護の教育・訓練においても多大な功績を残してきました。その良い例が、2016 年に発表された放射線防護専門家の認定制度に関する報告書です。IRPA はまた、地域および国際会議での再教育コースを通じて CPD を推進しています。これらのコースは一般的に参加者が多く、高く評価されています。しかし私は、IRPA が大会と大会の間の CPD において、もう少し目立つ存在になることを望んでいます。

初めて使ったサーベイメーターは？

率直に言って、わかりません。私は生粋の理論家であり、もちろん放射線防護研修中も、おそらく物理学科の学生だった学部生時代にもサーベイメーターを手にしたことがあるが、その詳細は覚えていません。しかし、現在私が愛用している測定器を紹介することはできます。それは、約 10 年間使用している MiniTrace β で、大学内で関連するすべての電離放射線の最初の結果を素早く出してくれます。

あなたは Rem チームですか、それとも Sv チームですか？

私はとても Sv チームです。普段は、他のチームがあることに気づいていません。高校時代から、私は SI 単位で育ってきました。学部時代の短期間だけ、バークレー物理学コースが標準でした。

もしあなたがあらゆる放射性核種になれるとしたら、どの核種になりたいですか？

放射性核種になることは私のバケットリストには入っていないので、この質問から逃れるのは簡単なことです。しかし、もし好きな放射性核種を選ばなければならないとしたら、私はすぐにハフニウムを思い浮かべます。Hf-181 は原子核固体物理学で使われていた、今では珍しい核種です。また、原子番号 114 の人工放射性核種であるフレロビウム (Fl) にも魅力を感じています。これは、博士課程の学生だった頃、研究のスピンオフとして、当時 (90 年代初頭) 人工的に生成された放射性核種からかなり離れた、いわゆる安定性の島で Fl-298 (当時は 298-114) という核種の特性を計算することに時間を費やしたことに遡ります。

IRPA 会員に向けて、他に何か言いたいことはありますか？

放射線防護の専門家の皆さんには、ぜひとも所属する国や地域の放射線防護学会で積極的に活動していただきたいと思います。時間はかかりますが、多くの新しい知識や経験を得ることができ、同僚や友人との貴重なネットワークもできます。そして非常に重要なことは、自国の放射線防護の発展の最前線に立つことができるということです。言い換えれば、「元が取れるし、楽しい」ということです！

新しい理事会メンバーに出会う： HIELKE FREERK BOERSMA 氏

私の寄稿の最後に、実に楽しいものになったと思う例を挙げたいと思います。2018年に開催される第5回欧州 IRPA 地域大会の準備中、大会期間中に美術展を開催する可能性について話し合いました。



元医学物理学者の Arie van't Riet 氏は、動物や植物の美しい色彩の X 線アートを制作しています。当初、このアイデアには二の足を踏んでいまし。IRPA の大会で、X 線を使ったアートをどこまで「普及」させるべきか、その正当性についての議論の可能性を念頭に置いていました。しかし私たちは、参加者の健康に良い影響を与えること、そしてこの芸術作品の制作中に悪い影響が生じないことを皆に納得してもらうことに成功し、展覧会は大成功に終わりました。私たちはアリー氏に、基調講演者やボランティアに提供される、大会のための特別なアート作品まで制作していただきました（下図参照）。今では私の家の壁にも飾られています。



図: X線アート作品 ‘Stages of Tulips – inspired by ‘Encouraging

オーストラリア、ダーウィンで開催される 第 18 回国際放射線防護委員会 (IRPA) への ARPS の旅

キャメロン・ジェフリーズ著
オーストラリア放射線防護学会 前会長
私たちの旅に関わったすべての人を代表して

オランダで開催された第 16 回 IRPA 会議のハイライトは、オーストラリア放射線防護学会 (ARPS) が第 18 回 IRPA 会議の招致に成功し、開催地としてオーストラリアのダーウィンが選ばれたことです。これは、多くの ARPS 会員による長年にわたる長い道のりの集大成です。この旅は、ARPS が IRPA および IRPA 加盟学会とより積極的に国際的な関わりを持つためのプロセスの一部でした。

オーストラリア建国 200 周年にあたる 1988 年、ARPS はシドニーで第 7 回 IRPA 大会を開催しました。それから 20 年以上経った 2011 年、ARPS の次世代は、オーストラレーシアが IRPA を通じて国際社会に積極的に参加することの重要性に合意しました。

そして、グラスゴーで開催された IRPA13 の期間中、IRPA15 の開催に向けた最初の、そしてささやかな招致活動から旅が始まりました。期待に胸を膨らませたものの、韓国放射線防護学会 (KARP) の強力な IRPA15 開催招致に比べれば、私たちの招致は「関心の表明」にすぎませんでした。これが最初の教訓となりました！最初の入札者が落札することはめったにありません。さらに重要なことは、準備と支援を集め、招致にこぎつけるという行為が、私たちに必要な経験を与えてくれたということです。また、KARP が IRPA や国際的な放射線防護コミュニティと非常に強いつながりを築き、単に大会を運営するだけでなく、それ以上のことに関与するというコミットメントを示していることも確認していました。私たちは KARP の成功を喜び、大いに支援しました。

ケープタウンで開催された IRPA 大会から早 4 年、私たちは 2024 年の大会開催権を獲得する準備が整ったと考えていました。私たちは招致活動に磨きをかけ、さらなる支持を集める努力をしてきました。しかしそうはならず、ケビン・ネルソンの指導の下、米国は私たちの招致活動よりも優れた包括的な招致活動を展開しました。

私たちは学び続けました。

私たちは国際的な領域でより積極的に活動するようになりましたが、まだ十分ではありませんでした。その結果、ARPS は立ち上がり、成功した大会チームを積極的にサポートするなど、IRPA の活動にさらに深く関わるようになり、IRPA の役員からタスクグループ活動まで、IRPA 組織でより積極的に活動するようになりました。この活動には、地域組織への働きかけや支援も含まれ、地域のニーズや機会に対する理解を深めました。その過程で、IRPA 地域大会や ICRP シンポジウムも開催しました。

オーストラリア、ダーウィンで開催される 第18回国際放射線防護委員会（IRPA）へのARPSの旅

IRPA 大会は現地組織委員会、国際大会プログラム委員会、国際大会支援委員会という3つの独立したグループに依存している、ということ学ぶことが重要です。地方組織委員会の重要な役割は大会担当副会長のリーダーシップの下、これら3つのグループの独立した仕事をまとめることです。

ほとんど乗り越えられない困難にもかかわらず、KARPは2020/2021年ハイブリッド大会（IRPA15）を大成功させ、称賛に値します。このことから私たちは、組織委員会は粘り強さと同時に柔軟性も必要であることを学びました。明確な目的と集中した成果を持つ一方で、適応する能力を維持することが、その資質として光りました。大会はまた、国際的なネットワークの基本的な重要性も補強しました。この大会では、2028年大会への招致を遠隔で行いましたが、残念ながらまたしても落選しました。私たちは準備が整ったと思っていたのですが、この敗北を、本当に大会を開催したいのかどうかを反省する機会としました。



私たちの熟考の答えは、「イエス！」でした。私たちはまだこれをやりたかったし、やれることも分かっていたましたが、もっとやる必要があることも分かっていた。そんな折、オランダで開催されるIRPA16の組織委員会にARPSメンバーも参加することになりました。これにより、ARPSメンバーは大会運営の内部管理や戦略について直接知ることができました。

そこで、ARPSチームは、学んだこと、得たスキル、そして提供する情熱を持って、静かな自信と、先行する大会で設定された基準に沿った国際大会を提供する準備ができているという知識を持って、IRPA18の選考プロセスに臨みました。

オーストラリア、ダーウィンで開催される 第18回国際放射線防護委員会（IRPA）へのARPSの旅



13年間の招致活動で最も重要なことのひとつは、その過程で仲間に出会えたことです。私たちは、世界中の多くの人々と仕事上の素晴らしい友情を築いてきました。多くの場合、この友情は仕事上の友情にとどまらず、日常生活の山あり谷ありを楽しんだり同情したりするまでになりました。私たちのメンバーは、ほぼすべてのIRPAタスクグループに参加しており、専門職の発展における経験を共有しています。

ARPSはまた、招致のたびに開催都市を変えています。ある意味では、国際大会のたびに、普段は決して訪れることのない世界の各地を訪れる機会を提供しています。オーストラリアとニュージーランドは、訪れるべき素晴らしい目的地が数多くある恵まれた国です。開催地候補の選定にあたっては、海外からのゲストにとってアクセスしやすく手頃な価格であること、さまざまな社交活動ができること、そして質の高い施設にアクセスできることに細心の注意を払いました。

IRPA18の優先開催地として選ばれたダーウィンは、多くのオーストラリア人でさえ経験したことのない、オーストラリアならではの体験を提供します！北部沿岸に位置するダーウィンは、シンガポールや他のアジアの都市から短時間でアクセスできるため、世界との距離が非常に近い。IRPA18の前後に時間を取って、オーストラリアやニュージーランドの他の地域を訪れることもできます。

この旅を総括するとすれば、IRPA大会のために働き、勝利することは、最もやりがいのある成果のひとつだと言えるでしょう。それには情熱、献身、そして何よりもIRPAが強力な共同体意識を持つ国際組織であるという認識が必要です。

2032年、ダーウィンとARPSは両手を広げてIRPA代表団を歓迎し、皆さんは私たちの家族の一員となります。

関連学会紹介： ポルトガル放射線防護学会 (SPPCR)

ルイス・ネベス著
ポルトガル放射線防護学会

ポルトガル放射線防護学会（SPPCR）は、ポルトガル法に基づく非営利団体であり、公益事業法（www.sppcr.pt）に認定され、IRPA に加盟しています。1993年に設立され、大学、病院、公的機関および民間部門の専門家を中心に70名の正会員がいます。ポルトガル放射線防護学会は、非電離放射線分野も担当しています。ポルトガルには原子力産業が基本的に存在しないため、私たちの活動のほとんどは、医療における放射線防護と自然放射能（ラドン）に関するものです。

ポルトガル放射線防護学会は、定期的に「Radioproteção」誌を発行し、書籍も出版しています。また、会議、ウェビナー、短期コースを開催し、国内法の改正に関する政府への助言も行っています。



2016年、ポルトガルのコインブラで開催された第5回ポルトガル語圏放射線防護会議。
左から右へ：José Marcus Godoy (President of SBPR), Luís Neves (President of SPPCR) and Eduardo Gallego (IRPA 理事会メンバー)。

関連学会紹介: ポルトガル放射線防護学会 (SPPCR)

ブラジル放射線防護学会 (SBPR) との強力な協力関係は、両団体が共催する一連の国際会議 (ポルトガル語圏放射線防護会議) を通じて長期にわたって築かれてきました。最初の合同会議は、2009 年にリスボンでジョアン・キンテラ・デ・ブリト会長 (SPPCR) とアルフレド・ロペス・フィーリョ会長 (SBPR) により開催され、第 10 回会議はつい最近、ブラジルのリオデジャネイロで 2024 年 10 月に開催されました。

これらの会議には、アンゴラやモザンビークなど、ポルトガル語圏の国々からの参加も増えており、近い将来、これらの国々で新しい放射線防護学会が設立され、IRPA となることを期待しています。また、これらの国々に新しい放射線防護学会が設立され、IRPA の会員となることを期待しています。



International Joint Conference Radio 2024 and 10th Congress of Radiation Protection of the Portuguese Speaking Countries, held in Barra da Tijuca, Rio de Janeiro, Brasil, 2024. From left to right: Eduardo Medina Gironzini (FRALC), Luís Neves (President of SPPCR), Alfredo Lopes Filho (Organizing committee, SBPR), Alcides Pereira (SPPCR), Josilto de Aquino (President of SBPR), Denise Levy (organizing committee, SBPR) and Pedro Vaz (SPPCR).

IRPA タスクグループ最新情報: WOMEN IN RADIATION (WiR)

2021年12月に設立された放射線における女性に関するIRPAのタスクグループ(WiR)は、アフリカ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北米、中南米、カリブ海諸国を含む多様な地域を代表する23の加盟学会から推薦された26人の専任メンバーで構成されています。



2022年3月から2023年3月にかけて、タスクグループはWiRのコアバリューを評価するための調査を実施しました。この努力は、2024年7月に米国オーランドで開催されたIRPA第16回国際会議の期間中に開催された「放射線における女性/原子力における女性(WiR/WiN)」に関する円卓会議で結実しました。

2024年10月30日、タスクグループは、2つの主要な目的を持つバーチャルミーティングを開催しました。会議の第一の目的は、IRPAオーランド・ラウンドテーブルで得られた知見を確認し、議論することでした。この対話は、タスクグループが進行中のイニシアチブに組み込むことを目指す貴重なフィードバックを提供しました。会議の第二の焦点は、「放射線における女性に関するIRPA声明」の起草を開始することでした。この重要な文書には、ジェンダー平等を推進し、放射線分野で女性が直面する課題に取り組むというタスクグループのコミットメントが集約されます。これまでの議論や活動を基に、タスクグループは声明が包括的でインパクトのあるものになることを目指しています。

これらの重要な点を取り上げるにより、タスクグループは、放射線分野の女性に影響を与える重要な問題に対する立場を固め、専門職の中でより包括的な環境を育成するための重要なステップを踏んでいます。これらの活動の成果は、公平性、包括性、交差性を提唱するというIRPAの使命を推進し、将来の取り組みや議論のための強固な基盤を築くことが期待されます。過去のダイアログを振り返りつつ、実行可能なステップを踏むというこの積極的なアプローチは、有意義な変化への一助となるでしょう。このような取り組みから得られた洞察は、今後発表される声明文に反映され、世界中の放射線に携わる女性の経験とニーズを取り上げることとなります。このような包括性へのコミットメントは、関係者個人と分野全体の両方の発展に不可欠です。

声明に盛り込むべきだと思われるトピックをお持ちの方、または私たちとの協力にご興味のある方は、mdigiorg@gmail.com または paula.veevers@health.qld.gov.au までご連絡ください。

関連学会の最新情報: マレーシア放射線防護学会(MARPA)

マレーシア放射線防護学会（MARPA）は2002年9月15日、マレーシアの放射線防護と安全に関する主要な専門家を代表する非政府組織として設立されました。MARPAの設立は、第1回年次総会で初代理事が選出されたことに始まります。

2006年、MARPAは国際放射線防護学会（IRPA）の46番目の加盟団体となり、アジア・オセアニア放射線防護学会（AOARP）の7番目の加盟団体となることで、国際的な認知を得ました。MARPAには約700人の登録会員がいますが、約200～300人の会員がMARPAのプログラムやイニシアチブに積極的に参加しています。

最近の動きとしては、MARPAはマレーシア原子力庁と協力し、放射線防護会議（RPC）と品質シンポジウムという2つの大きなイベントを開催しました。MARPAはまた、米国フロリダ州オーランドで開催される国際会議IRPA18の招致を申請しました。

MARPAは原子力技術委員会のメンバーとして、マレーシアの国家原子力技術政策に基づくすべての計画が適切に実施・監視されるよう、重要な役割を果たしています。



MARPA committee in the frontline after the 2024 Annual General Meeting



MARPA representatives with Kevin Nelson, Chair of the IRPA 16 organizing committee, at IRPA16 in Orlando, Florida, USA



Radiation Protection Conference 2024 dinner at Johor Baharu, Malaysia

SEND US YOUR NEWS!

共有するニュースをお持ちですか？
下記までお送りください：

cop@irpa.net

IRPA News と IRPA 会報でご紹介します。会報の記事は通常 200 ～300 字と画像です。

ソサエティ・スポットライトでは、加盟学会からの最新情報を随時 募集しています。貴学会の近況をお知らせください。会合、会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも歓迎します！

IRPA 出版委員会：

IRPA コミュニケーションオフィサー: Dave Niven

会報編集部: Andy Karam, Dave Niven

関連学会リエゾン: Michèle Légaré

ウェブサイト管理者: Dave Niven

ソーシャルメディアマネージャー: Sara Dumit & Dave Niven

素晴らしいニュースです！ PayPal を通じて、IRPA モントリオール基金に直接ご寄付いただけるようになりました！寄付のリンクは、[IRPA ウェブサイトのモントリオール基金のページ](#)をご覧ください。

